

今年2回目の「語ルシストの会」を10名ほどで実施しました。  
参加している多職種（ケアマネジャー、看護師、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士など）の方、特に訪問看護ステーション、地域包括支援センター、地域訪問診療所、グループホームなどの運営者や勤務する専門職と意見交換しながら、地域で生活する精神障がい者が自立するための支援や援助とはどのような支援が求められているか、話し合いました。

今回は、お酒やたばこ好きで金銭管理のない方に対する生活困難さをどのように関わって自立生活を支えることができるか。

独居生活で隣近所との人的交流もなく認知症のある高齢者の方の生活にどのように介入して支えるか、特にコロナ感染などの時に接触を避ける事業所もある中でどのように支えるか。

それぞれの事例が出て、既成の型通りの支援の限界を乗り越えないと利用者及び支援者お互いが納得のいく支援はできないというのが参加者のコンセンサスとして感じました。

お互いの得意な支援を共有して、連携できることは連携して、利用者の求める支援をしっかりと聴いて利用者オンリーの必要とされる支援を実行することを事例で確認しました。

参加している方々の共通意識として既存の支援の在り方で、困難を抱えた方、サービスから取り残される方・狭間の人を如何に支援できるか、既存や前例などによる支援の限界を感じていて、それぞれ独自に展開している支援を開示して参加者と再度ブラッシュアップしていくことで、誰もが楽しく生き生きと支援できることを目指してフィードバックしながら事例を検討することを実感しました。

大施設・事業所での弊害を支援者も利用者も実感していて、小規模で多機能な地域密着の支援を求めて起業されるところに事業としての可能性が大いにありと見えるし、そのような支援事業にチャレンジする支援者との出会いによって地域福祉の可能性を推進でき、支援者も利用者もそれぞれに打算や情性の人生ではなく、生きがいや希望を持つことができる支援を試みる支援者に会える集りになることを願っている次第です。

私達とは真逆の援助をしている精神科病院。

NHKのETV特集「ルポ 死亡退院 ～精神医療・闇の実態～」2月25日午後11時から放送の録画を観る。

病院の看護師などが日々の仕事を如何に問題なく遂行するために患者を管理するために、恫喝、暴行、拘束など患者を押さえつける手法による管理を日々行っているという異常な世界取材した番組である。

ただ、このような病院でも必要とする家族、行政などの人達がいる現実にスポットも当てていた。

思うのだが、適切な治療をせず、不法な医療行為を行っている精神科病院を解体することで医療費を削減し、地域支援に予算を計上して、家族だけに負担を背負わずのではなく、地域でしっかりした包括的な支援を充実させることで、病院ではなく地域で生活を支える施策の方が如何に人間的な支援か思える。

※再放送 3月2日（木）午前0時

<https://www.nhk.jp/.../ts/M2ZWLQ6RQP/episode/te/XMN1G4994L/>